



矢野 邦夫 先生

浜松医療センター

副院長 兼 感染症内科長 兼 臨床研修管理室長 兼 衛生管理室長

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）、'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長に就任。2011年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索

## 授乳と感染症

母乳は幼児（未熟児や病気の新生児を含む）にとって完全な栄養形態であるので、可能な限り与えるのが望ましい。そのため、根拠なく思いつきで授乳を中止してはならない。一方、授乳が推奨されない稀な例外もある。ここではCDCが提示している授乳と感染症についての情報を紹介する(1,2)。

### 授乳の禁忌について(1)

■ 下記の場合には幼児に授乳したり、搾乳した母乳を与えてはならない。

- 幼児が古典的なガラクトース血症（稀な遺伝的代謝異常）と診断されているとき
- 母親がHIVに感染しているとき
- 母親がヒトT細胞白血病ウイルスⅠ型もしくはⅡ型に感染しているとき
- 母親が街で取引される違法な麻薬（フェンシクリジンやコカインなど）を使用しているとき（例外：麻薬依存の母親がメタドンの監視プログラムに登録されていて、HIV感染のスクリーニング検査が陰性であり、その他の違法薬剤が使用されていない場合授乳は可能である）
- 母親にエボラウイルス病が疑われているか確定しているとき

■ 下記の場合は、一時的に幼児に授乳したり、搾乳した母乳を与えてはならない。

- 母親が未治療のブルセラ症に罹患しているとき
- 母親が特定の薬剤を摂取しているとき
- 母親が放射線医薬品を用いた画像診断を受けているとき
- 母親が活動性単純ヘルペス感染症に罹患していて、乳房に皮膚病変が存在しているとき（注意：伝播を避けるために乳房の病変部位が完全に覆われていれば、病変のない乳房から授乳することは可能である）。

■ 下記の場合は、母親は一時的に授乳すべきではないが、搾乳された母乳を与えることはできる。

- 母親が未治療の活動性結核であるとき（注意：約2週間の治療がなされていて、感染性がないことが証明されれば、授乳を再開してもよい）
- 出産前の5日以内から出産後2日までに母親が水痘を発症したとき

空気予防策および接触予防策では母親と幼児を一時的に離す必要がある。この間、搾乳された母乳は他のケア担当者によって幼児に与えられなければならない。

## 特定の感染症と授乳に関するQ&A(2)

### ■B型肝炎

**Q.** B型肝炎ウイルス(HBV: hepatitis B virus)に感染している母親が授乳しても安全か？

**A.** 安全である。HBVに感染している母親から生まれた全ての幼児は出産12時間以内に、B型肝炎用免疫グロブリン(HBIG: hepatitis B immune globulin)およびHBVワクチンの初回接種を受けなければならない。HBVワクチンの2回目接種は生後1～2ヶ月で実施され、3回目は生後6ヶ月で接種される。そして、ワクチンが機能しているかどうか、そして出産時に母親の血液に曝露したことによってHBVに感染していないことを確定するために、幼児はワクチン接種が完了したあとの生後9～12ヶ月後に検査される。しかし、幼児が十分に免疫化されるまで授乳を遅らせる必要はない。HBVに感染している母親から生まれた幼児が出産時にHBIG/HBVワクチンを受けているならば、授乳を介したHBVの母子感染の危険性は無視できるほどである。

**Q.** 乳首が裂けて出血しているときに、HBVに感染している母親が授乳しても安全か？

**A.** HBVは感染血液にて伝播する。それ故、HBVに感染している母親の乳首や周辺の乳輪が裂けて出血しているならば、一時的に授乳を止めるべきである。乳首の亀裂と出血がなくなれば授乳を再開してもよい。授乳しないときには、乳汁分泌を維持するために、乳首が治癒するまで、搾乳して、母乳を廃棄する。

### ■C型肝炎

**Q.** C型肝炎ウイルス(HCV: hepatitis C virus)に感染している母親は幼児に授乳しても安全か？

**A.** 安全である。授乳がHCVを感染させるというエビデンスはない。それゆえ、母親がHCVに感染していることは授乳の禁忌とはならない。

**Q.** 乳首が裂けて出血しているときに、HCVに感染している母親が授乳しても安全か？

**A.** HCVは感染血液にて伝播する。それ故、HCVに感染している母親の乳首や周辺の乳輪が裂けて出血しているならば、一時的に授乳を止めるべきである。乳首の亀裂と出血がなくなれば授乳を再開してもよい。授乳しないときには、乳汁分泌を維持するために、乳首が治癒するまで、搾乳して、母乳を廃棄する。

### ■インフルエンザ

母乳はインフルエンザを含む多くの呼吸器疾患に対して防御を提供している。インフルエンザが疑われているか確定している母親は幼児に母乳を提供し続けるとともに、ウイルスを幼児に伝播させない予防策を十分にとるべきである。

**Q.** インフルエンザは母乳を介して伝播するか？

**A.** インフルエンザウイルスは母乳を介して伝播しない。咳やくしゃみなどの飛沫を介して伝播したり、環境表面に付着しているウイルスが口や鼻に付着して感染する。

**Q.** 母親がインフルエンザに罹患していたり、インフルエンザ患者に接触した場合も授乳を継続すべきか？

**A.** 継続すべきである。母乳には幼児をインフルエンザから守る抗体やその他の免疫学的成分が含まれているので、母親がインフルエンザに罹患しているときであっても、幼児への栄養として推奨される。

母親が余りにも重症で、乳房で幼児に授乳させることができず、他の保護者が幼児をケアするのであれば、定期的に搾乳して授乳させれば、母乳を継続することができる。搾乳の前には母親は石鹸と流水にて手洗いを。

**Q.** インフルエンザワクチンを授乳中の母親に接種しても安全か？

**A.** 安全である。妊娠中および授乳中にインフルエンザワクチンを接種した女性ではインフルエンザに対する抗体が産生され、それが母乳を介して、幼児に与えられる。授乳はインフルエンザワクチンを接種できない生後6か月未満の幼児を含めた幼児にインフルエンザに対する免疫を提供する。

**Q.** 授乳もしくは搾乳した母乳を与えている母親に抗インフルエンザ薬を処方することは安全か？

**A.** 安全である。CDCはインフルエンザが疑われるか確定している出産後(出産2週間以内など)の女性には抗インフルエンザ薬を投与することを推奨している。このような女性はインフルエンザ合併症のハイリスクだからである。この場合、経口オセルタミビルが好まれる。オセルタミビルは母乳中には殆ど分泌されない。

[文献] (1) CDC. Contraindications to breastfeeding or feeding expressed breast milk to infants  
<https://www.cdc.gov/breastfeeding/breastfeeding-special-circumstances/Contraindications-to-breastfeeding.html>  
(2) CDC. Breastfeeding. Maternal or infant illnesses or conditions  
<https://www.cdc.gov/breastfeeding/breastfeeding-special-circumstances/maternal-or-infant-illnesses/index.html>

こちらも公開しています。

メディコン CDCガイドライン  

製造販売業者

株式会社メディコン

本社 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎0120-036-541

[crbard.jp](http://crbard.jp)

BD, the BD Logo are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates. © 2019 BD. All rights reserved.

